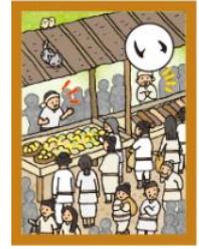


振興部の 知っとこ！神美

知っておいてほしい神美を紹介します。

【奥野、市場、森尾、倉見の地名】



奥野 鎮守は有倉兵主大明神で、近代以降は^{おおいくべ}大生部兵主神社を稱し、式内の同名社に比定されるが、三宅と但東町薬王寺の同名社や出石町中村の伊福部神社と並んで論社となった^{おおぶのあたえやまかた}経緯がある。三宅の同名社が大生直山方が奉祀した同名社系列の原社であったと敢て断定しておく。

「奥野」は文字通り穴見谷の「奥の野」で、「但馬国太田文」に香住入道浄阿が新田三十町^{あずかりどころ}を開発したが預所・佐渡入道禅海に押領されたとある。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

市場 市が立ったところを市場と呼んだ。全国に数多くある。単に市場とするのは鎌倉期の発祥で、穴見市場のように地名を冠するものは南北朝期の発生とする説がある。日^{はず}立てにより、一日市・七日市などとする場合が多い。大正期に「穴見」を外した。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

森尾 森尾古墳は四世紀後半の但馬最古の古墳とされ、「正始元年(二四〇)」銘の鏡(「ヒミコの鏡」)が出た。盛重寺は平井盛重が開基で、平井盛重は出石郡西部を直轄領とした但馬守護・山名氏の家臣団の一人として一帯を差配したもの。「森」は山で、「森尾」は山裾である。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

倉見 「倉見」は^{くらま}「倉間」(鞍馬)である。「クラ」はマレー語であるとの説があり、∩状の弯曲を指すという。胡坐(あぐら)は両足の形を指し、倉(くら)は山肌を掘り抜いた入口の形を指す。谷間もその形状からクラと呼ぶ。クラは谷間を形成する崖や岩山をも指すことがある。「倉見」が「谷間」の意であることは^{こいで}現地に立てば実感できる。

当地に陣屋を置いた旗本・倉見小出氏の陣屋跡は平成二十一年に市の史跡に指定された。

(豊岡の地名 山口久喜著より)